



**トーカロ株式会社**

2025 年 3 月期 決算説明会

2025 年 5 月 20 日

## イベント概要

---

[企業名]	トーカロ株式会社		
[企業 ID]	3433		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 3 月期 決算説明会		
[決算期]	2025 年度 通期		
[日程]	2025 年 5 月 20 日		
[ページ数]	38		
[時間]	13:30 – 14:08 (合計：38 分、登壇：20 分、質疑応答：18 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]	145 m <sup>2</sup>		
[出席人数]	20 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役 社長執行役員	小林	和也（以下、小林）
	取締役 常務執行役員 管理本部長	後藤	浩志（以下、後藤）
	執行役員 経営企画部長	中井	勝紀（以下、中井）

---

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

経営企画部 専門課長

真砂 綾 (以下、真砂)

**[アナリスト名]\*** いちよし経済研究所

大澤 充周

\*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、  
SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

---

## サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス [support@scriptsasia.com](mailto:support@scriptsasia.com)



## 登壇

---

**司会：**お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまからトーカロ株式会社様の 2025 年 3 月期の決算説明会を開催いたします。本日の説明会は会場での開催に加えまして、ライブ配信形式のオンラインと合わせましたハイブリッド形式でお送りします。

それではまずはじめに、会社からお迎えしている 4 名様、ご紹介申し上げます。代表取締役、社長執行役員の小林和也様。取締役、常務執行役員、管理本部長の後藤浩志様。執行役員、経営企画部長の中井勝紀様。経営企画部、専門課長の真砂綾様。

本日、ご説明のほうは、小林社長様からいただくことになっております。

ご説明の後、まず会場参加の方からの質疑応答の時間、続きましてオンライン参加の方からの質疑応答にいたします。

それでは小林様、よろしくお願いいたします。



## 本日の内容

1. 2025年3月期 連結決算の概要
2. 2026年3月期 連結業績予想
3. トピックス
4. 中期経営計画の進捗状況

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

---

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



小林：皆さんこんにちは。社長の小林です。本日はご多用の中、トーカロ株式会社の2025年3月期の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。本日はリアルとライブ中継合わせて、約70名の皆様にご参加いただいているようです。よろしくお願い申し上げます。

本日、ご説明する資料はこの四つです。

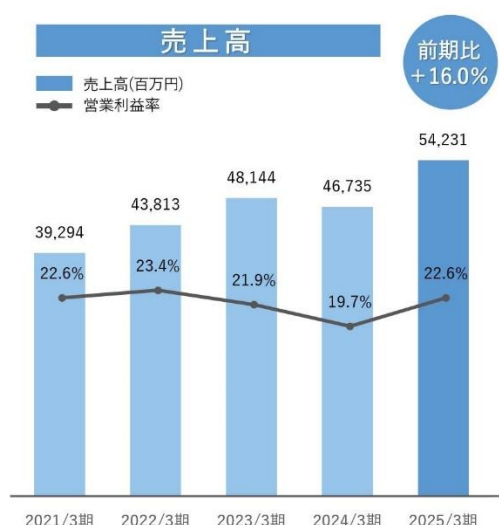
## 2025年3月期連結決算 ハイライト



半導体分野の回復により、過去最高の売上高を更新



経常利益も2期前を上回り、過去最高を更新



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

4

まず、2025年3月期連結決算の概要をご説明いたします。

2025年3月期の実績のグラフです。

左側が売上高と営業利益率、右側が経常利益と経常利益率です。

2025年3月期の実績は、売上高542億円、営業利益率22.6%。経常利益125億円、経常利益率23.2%。半導体分野の回復により、売上高、経常利益ともに、過去最高を更新しました。

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

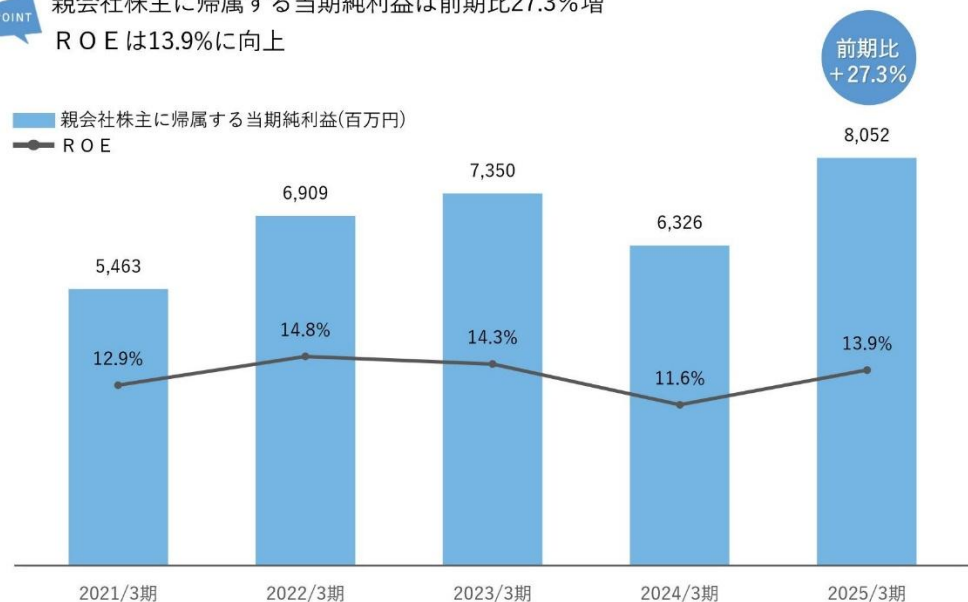


4

# 2025年3月期連結決算 親会社株主に帰属する当期純利益とROE



**POINT** 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比27.3%増  
ROEは13.9%に向上



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

5

親会社株主に帰属する当社純利益は、前期比 27.3%増の 80 億円、ROE は 13.9%となりました。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



# 2025年3月期 連結決算(P/L)の概要

- 半導体分野の受注増に伴い売上高は前期比16.0%増
- 経常利益は、利益率の高い半導体分野の売上増加により前期比30.0%増

(百万円)	2024/3期		2025/3期		前年同期比増減	
	実 績	構成比	実 績	構成比	金 額	率
売上高	46,735	100.0%	54,231	100.0%	7,495	16.0%
営業利益	9,197	19.7%	12,271	22.6%	3,074	33.4%
経常利益	9,662	20.7%	12,561	23.2%	2,898	30.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,326	13.5%	8,052	14.8%	1,725	27.3%
1株当たり当期純利益 (EPS)	105.53円	—	135.45円	—	29.92円	—

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

6

売上高は、半導体分野の受注増に伴い、前期比 16%増でした。

経常利益は、利益率の高い半導体分野の売上増加により、前期比 30%増となりました。また、経常利益率は、2.5 ポイント上昇し 23.2%でした。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





## 2025年3月期 売上高（分野別）

TOCALO

- 最大セグメントの溶射加工（単体）が、売上高を牽引し前期比15.8%増加
- 海外子会社についても28.4%増と好調

(百万円)	2024/3期		2025/3期		前年同期比増減	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	率
売上高	46,735	100.0%	54,231	100.0%	7,495	16.0%
■ 溶射加工(単体)	33,859	72.4%	39,213	72.3%	5,354	15.8%
半導体・FPD	19,557	41.8%	24,114	44.5%	4,557	23.3%
産業機械	4,923	10.5%	4,872	9.0%	△51	-1.0%
鉄鋼	3,651	7.8%	3,927	7.2%	276	7.6%
その他	5,727	12.3%	6,298	11.6%	571	10.0%
■ その他表面処理加工	3,019	6.5%	2,880	5.3%	△138	-4.6%
■ 国内子会社	2,457	5.3%	2,656	4.9%	198	8.1%
■ 海外子会社	7,257	15.5%	9,319	17.2%	2,061	28.4%
受取ロイヤリティー等	141	0.3%	161	0.3%	19	13.7%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

7

分野別の売上高についてご説明します。

最大セグメントの溶射加工（単体）は、前期好調だった産業機械が微減だったものの、半導体・FPD、鉄鋼、その他の分野は好調に推移し、15.8%の増収となりました。

その他表面処理加工は、農業機械分野の在庫調整により減収となりましたが、海外子会社は、好調に推移し増収となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

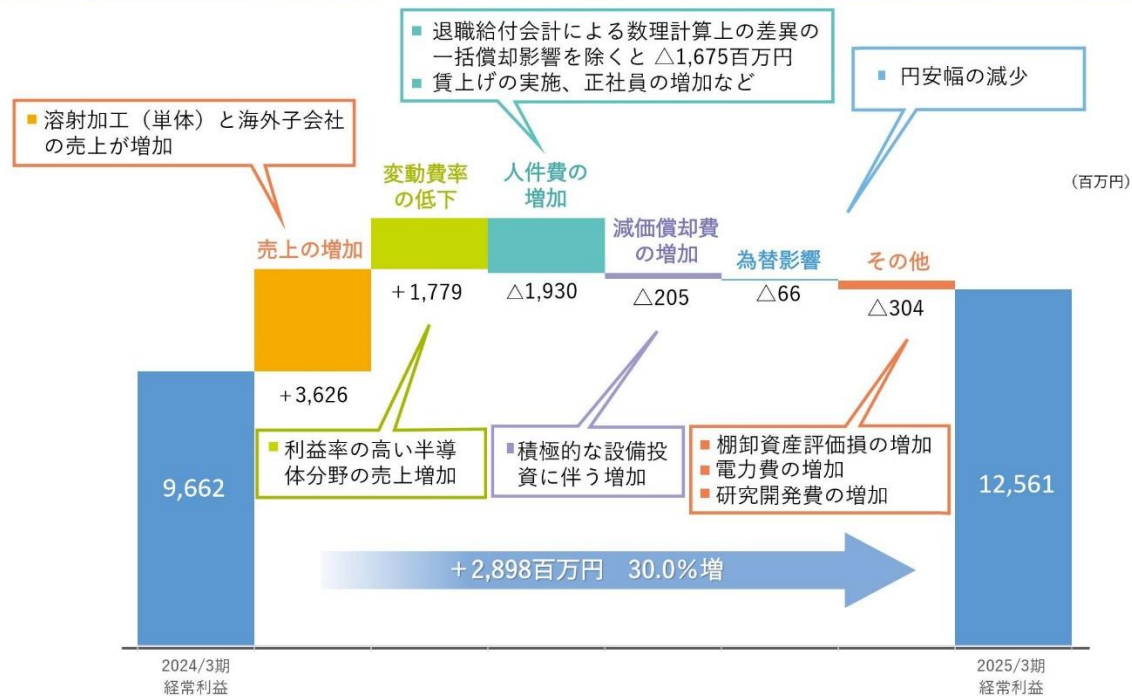
 **SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

7



# 経常利益 増減要因分析

TOCALO



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

8

経常利益の前期比増減要因分析です。

2025年3月期の経常利益は125億6,100万円と、前期比28億9,800万円増加しました。

主な増加要因は、売上高の増加と変動費率の低下です。

一方、主な減少要因は人件費の増加です。当社は、退職給付会計の数理計算上の差異を一括償却していますが、この影響を除けば人件費は16億7,500万円の増加でした。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

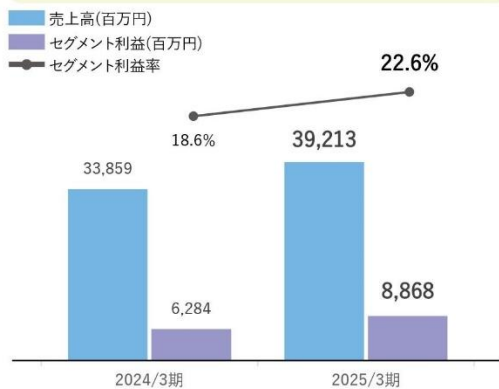
# 2025年3月期連結決算 セグメント別

TOCALO

## 溶射加工(単体)

半導体分野の回復をはじめ、鉄鋼分野、その他分野も好調に推移し、増収増益

前年同期比増減率 売上高 …… +15.8%  
セグメント利益 …… +41.1%



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

## 国内子会社

寺田工作所を連結に加え増収となるも、日本コーティングセンターの切削工具が伸び悩み減益

前年同期比増減率 売上高 …… +8.1%  
セグメント利益 …… -29.1%



9

セグメント別の売上利益について、前期との比較です。

溶射加工（単体）は、半導体分野の回復を始め、鉄鋼その他の分野も好調に推移し、増収増益となりました。

国内子会社は、寺田工作所を連結に加え、少ないながらも売上高および利益を押し上げました。一方で、日本コーティングセンターは、自動車産業の需要低迷が続き、前期比で減収減益となりました。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

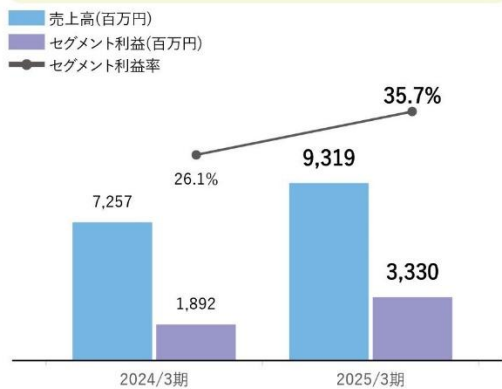
9

# 2025年3月期連結決算 セグメント別

## 海外子会社

半導体および鉄鋼分野の売上伸長により、増収増益

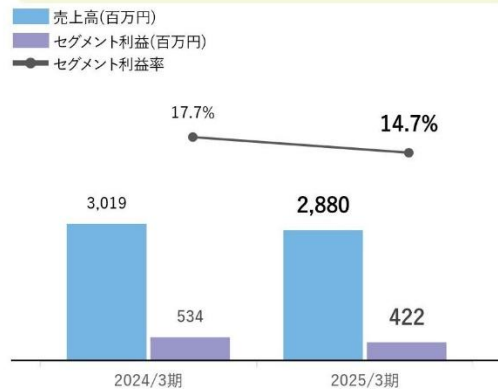
前年同期比増減率	売上高 …… +28.4%
	セグメント利益 … +76.0%



## その他表面処理加工

農業機械部品向けの受注が在庫調整に入り、減収減益

前年同期比増減率	売上高 …… -4.6%
	セグメント利益 … -21.0%



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

10

海外子会社は、半導体および鉄鋼分野の売上が増加し、大幅な増収増益となりました。

その他表面処理加工は、顧客の在庫調整により農業機械部品向けの受注が減少し、減収減益となりました。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

# セグメント情報



(百万円)	前年同期比増減							
	2024/3期		2025/3期		売上高		セグメント利益	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	金 額	率	金 額	率
■ 溶射加工(単体)	33,859	6,284	39,213	8,868	5,354	15.8%	2,583	41.1%
■ 国内子会社	2,457	492	2,656	349	198	8.1%	△143	-29.1%
■ 海外子会社	7,257	1,892	9,319	3,330	2,061	28.4%	1,438	76.0%
■ その他表面処理加工	3,019	534	2,880	422	△138	-4.6%	△112	-21.0%
合 計	46,593	9,204	54,069	12,970	7,476	16.0%	3,765	40.9%

(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティ等」は含まれておりません。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.


11

各セグメントの売上利益について、前期との比較表を、ご参考にお示ししておきます。


## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





# 財政状態



- 総資産は、前期末比37億円の増加（有形固定資産の増加23億円）
- 自己資本比率は、前期末比3.1ポイント上昇の74.3%
- 有利子負債は、前期末比12億円の減少

(百万円)	2024/3期	2025/3期
	4Q末	4Q末
総資産	77,940	81,676
自己資本	55,460	60,646
自己資本比率	71.2%	74.3%
有利子負債残高	5,002	3,796

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

12

2025 年 3 月期末の財政状態です。

総資産は、有形固定資産の増加などにより、前期末比 37 億円の増加となりました。自己資本比率は、前期末比 3.1 ポイント改善し 74.3%となりました。有利子負債は、前期末比 12 億円減少し 37 億円となりました。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



# キャッシュ・フローの状況

- 当期のフリーキャッシュ・フロー（営業CF＋投資CF）は＋28億円
- 投資CF／有形固定資産の取得 前期：△47億円 当期：△55億円
- 財務CF／配当金の支払額 前期：△31億円 当期：△34億円  
 自己株式の取得 前期：△20億円 当期：－

（百万円）	2024/3期 通期	2025/3期 通期
営業キャッシュ・フロー	7,877	9,077
投資キャッシュ・フロー	△ 4,634	△ 6,194
財務キャッシュ・フロー	△ 3,241	△ 5,124
現金及び現金同等物の期末残高	19,656	17,591

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

13

2025年3月期のキャッシュ・フロー状況です。

営業キャッシュ・フローがプラス90億円、投資キャッシュ・フローはマイナス61億円で、フリーキャッシュ・フローはプラス28億円と、健全な状態です。

財務キャッシュ・フローは、配当および借入返済によりマイナス51億円。その結果、当期のキャッシュ残高は175億円と、前期末比で20億円減少しました。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



# 売上高と経常利益の見通し

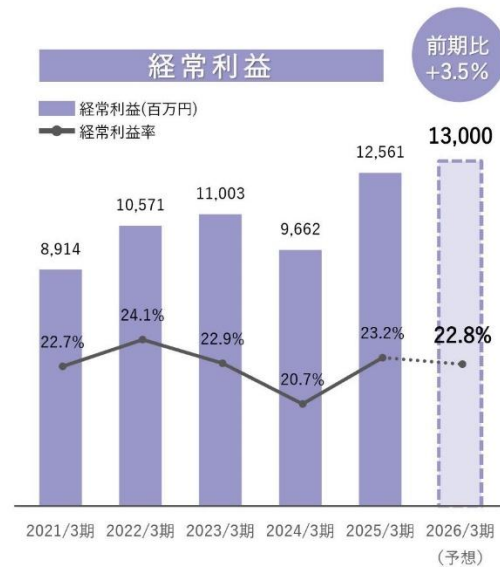
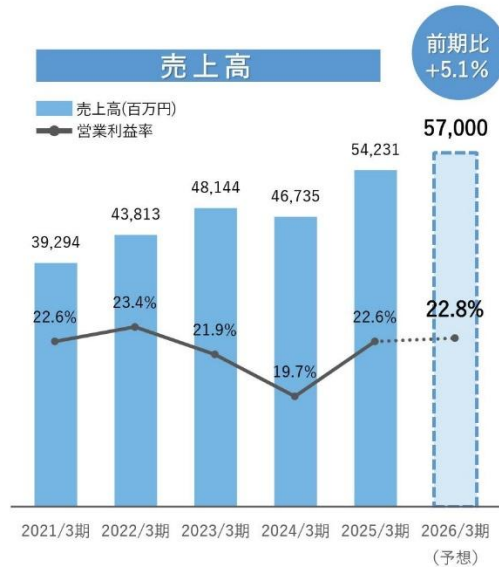
TOCALO

POINT

半導体分野が引き続き好調に推移し、過去最高の売上高となる見通し

POINT

増収に伴い、経常利益も過去最高益を更新する見通し



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

15

次に、2026 年 3 月期の連結業績予想についてご説明します。

2026 年 3 月期の業績予想は、売上高 570 億円、営業利益率 22.8%。経常利益 130 億円、経常利益率 22.8%。

売上高は、半導体分野が引き続き好調に推移し、過去最高を更新する見通しです。経常利益についても、増収に伴い、過去最高益を更新する見通しです。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

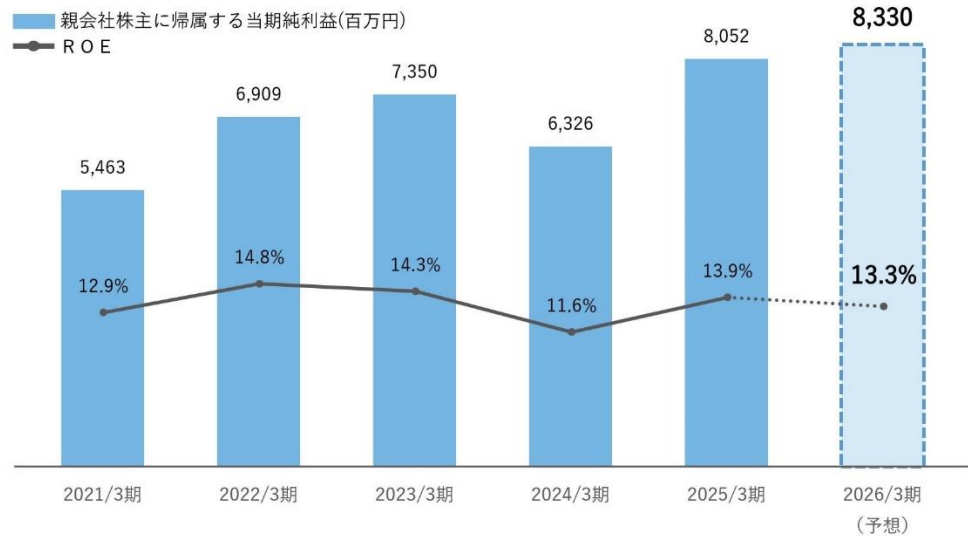


# 親会社株主に帰属する当期純利益と ROE の見通し



POINT 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3.4%増  
ROE は13.3%とほぼ横ばい

前期比  
+3.4%



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

16

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比 3.4%増の 83 億円となり、ROE は 13.3%とほぼ横ばいで推移する見通しです。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





# 2026年3月期 連結業績予想



(百万円)	2025/3期 通期		2026/3期 通期		前期実績比増減	
	実 績	構成比	予 想	構成比	金額	率
売上高	54,231	100.0%	57,000	100.0%	2,768	5.1%
■ 溶射加工(単体)	39,213	72.3%	39,265	68.9%	51	0.1%
半導体・FPD	24,114	44.5%	25,187	44.2%	1,072	4.4%
産業機械	4,872	9.0%	4,338	7.6%	△534	-11.0%
鉄鋼	3,927	7.2%	4,110	7.2%	182	4.6%
その他	6,298	11.6%	5,630	9.9%	△668	-10.6%
■ その他表面処理加工	2,880	5.3%	2,474	4.3%	△406	-14.1%
■ 国内子会社	2,656	4.9%	3,088	5.4%	431	16.3%
■ 海外子会社	9,319	17.2%	12,013	21.1%	2,693	28.9%
受取ロイヤリティ等	161	0.3%	160	0.3%	△1	-0.8%
営業利益	12,271	22.6%	13,000	22.8%	728	5.9%
経常利益	12,561	23.2%	13,000	22.8%	438	3.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,052	14.8%	8,330	14.6%	277	3.4%
1株当たり当期純利益 (EPS)	135.45円	—	140.11円	—	4.66円	—
自己資本利益率 (ROE)	13.9%	—	13.3%	—	-0.6pt	—

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

17

2026年3月期連結業績予想についてご説明します。

売上高の予想は570億円と、前期比27億円の増加となります。その主な要因は、半導体・FPD分野での10億円の増収です。売上高の44.2%が、半導体・FPD分野となります。

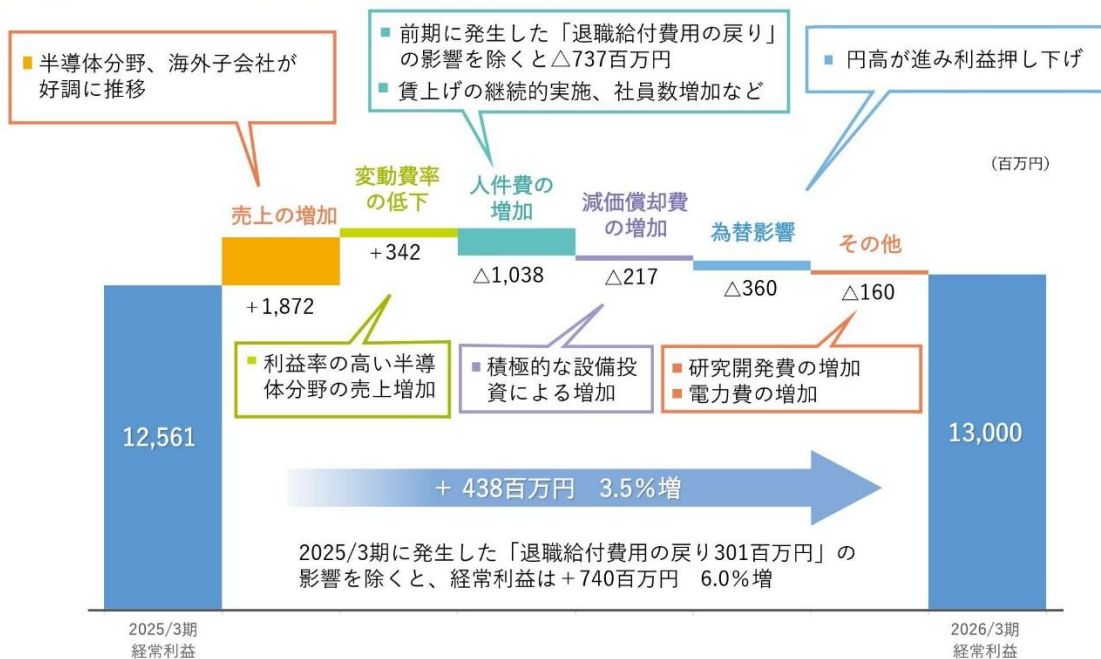
経常利益の予想は130億円と、前期比4億円の増加で、経常利益率は22.8%となります。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



# 連結業績予想 経常利益 増減要因分析



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

18

経常利益予想の前期比増減要因分析です。

主なプラス要因は、売上高の増加および変動費率の低下です。

マイナス要因としては、賃上げおよび生産増に対応した人員増により、人件費 10 億 3,800 万円の増加と、積極的な設備投資による償却負担の増加です。

人件費については、前期に発生した退職給付費用の戻り 3 億 100 万円が含まれており、これを除くと人件費の増加は 7 億 3,700 万円です。また、為替影響については、若干の円高を織り込んでおります。

### サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

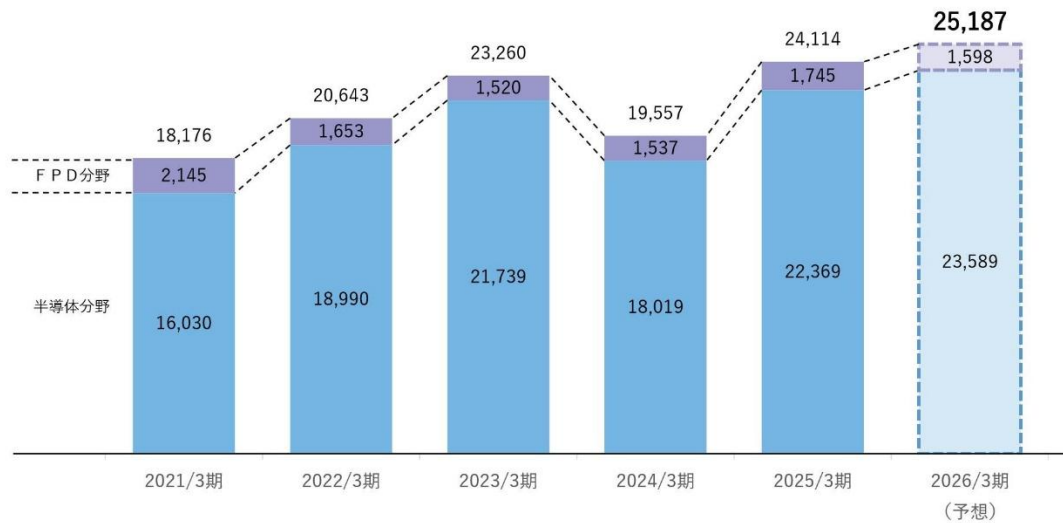


# 半導体・FPD分野の売上推移

TOCALO

**POINT** 半導体分野は今期も高水準の需要が継続し、好調に推移する見通し

前期比  
+4.4% (百万円)



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

19

半導体・FPD 分野の売上推移です。

2026 年 3 月期の予想は 251 億円、うち半導体が 235 億円、FPD が 15 億円です。半導体市場は今期も高水準の需要が継続し、好調に推移すると予想しています。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

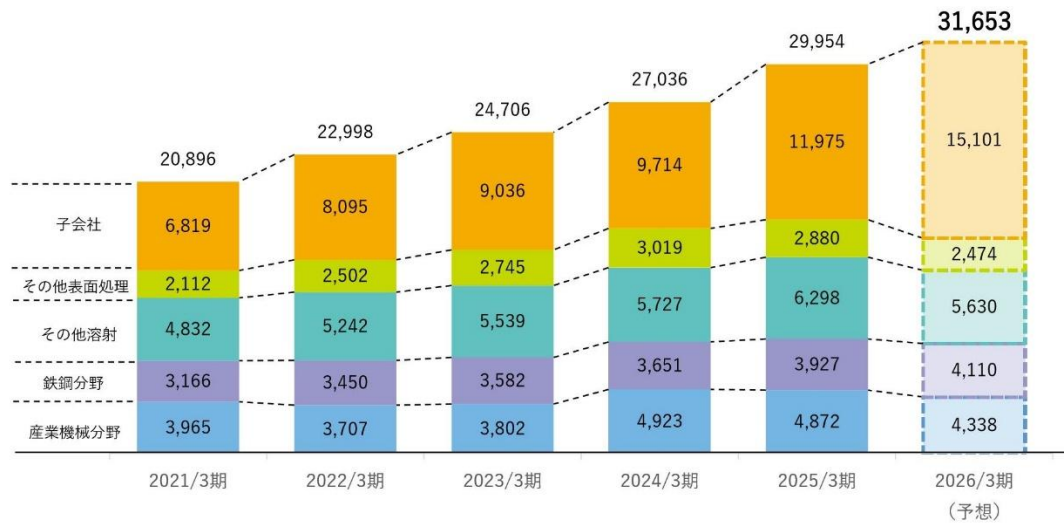
**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

# 半導体・F P D分野以外の売上推移

TOCALO

POINT 半導体・F P D分野以外の売上高は、前期比5.7%増を見込む  
子会社も引き続き好調に推移する見通し

前期比  
+5.7% (百万円)



(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティー等」は含まれておりません。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

20

半導体・FPD 分野以外の売上推移です。

2026 年 3 月期の予想は 316 億円と、前期比の 299 億円から 5.7%の増加を見込んでいます。前期に引き続き、子会社も好調に推移する見通しです。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

# 設備投資額と減価償却費

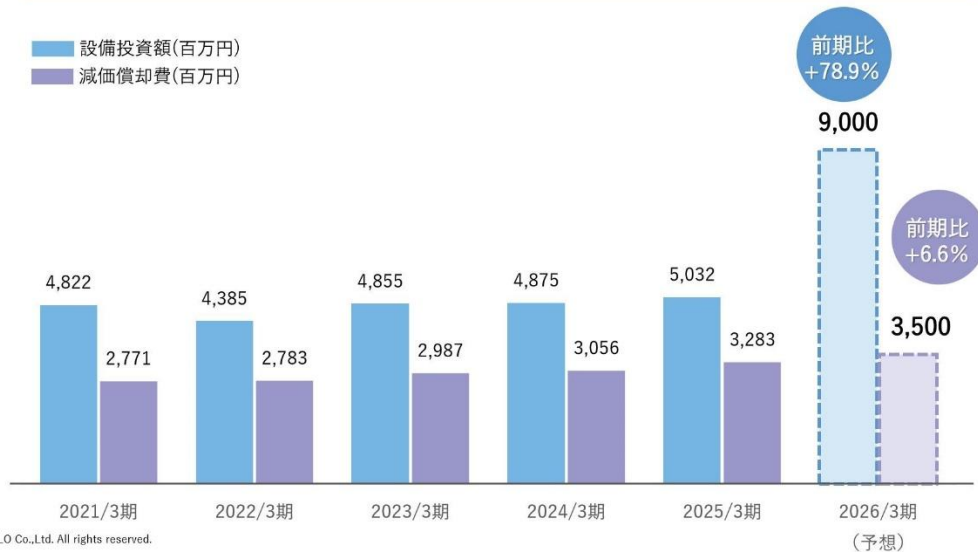
TOCALO



2026年3月期の設備投資予定額 90億円

- トーカロ 70億円：東京・北九州工場新棟建設、増産対応・生産効率化、研究設備など
- 国内子会社 8億円：寺田工作所の新棟建設、日本コーティングセンターの生産能力増強など
- 海外子会社 12億円：東賀隆（昆山）・漢泰国際電子（台湾）での新工場立ち上げなど

■ 設備投資額(百万円)  
■ 減価償却費(百万円)



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

21

設備投資費と減価償却費の推移です。

2026年3月期の計画として、設備投資総額90億円、減価償却費35億円を見込んでいます。トーカロ単体では東京工場・北九州工場の新棟建設の他、半導体分野向けを中心とする増産対応や生産効率化の設備投資など、総額で70億円を予定しています。

国内子会社においては、寺田工作所の新棟建設、日本コーティングセンターの生産能力増強など、総額で8億円を予定しています。

また、海外子会社においては、東賀隆、漢泰国際電子での新工場立ち上げなどで、12億円の設備投資を予定しています。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

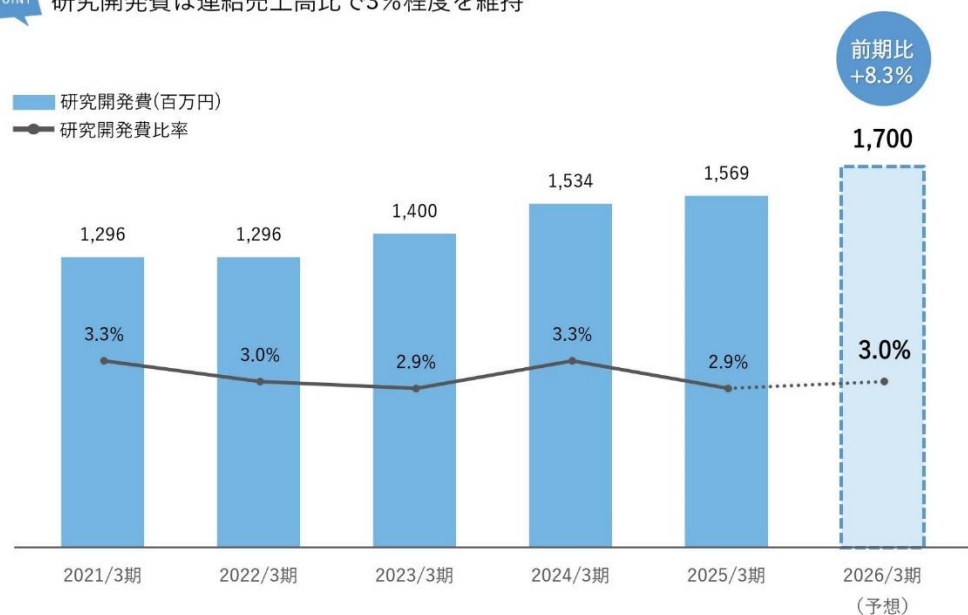
SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

20

# 研究開発費



POINT 研究開発費は連結売上高比で3%程度を維持



Copyright (c) Tocalo Co., Ltd. All rights reserved.

22

研究開発費の推移です。

2026年3月期の研究開発費は17億円、売上高比率3.0%を見込んでいます。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



21

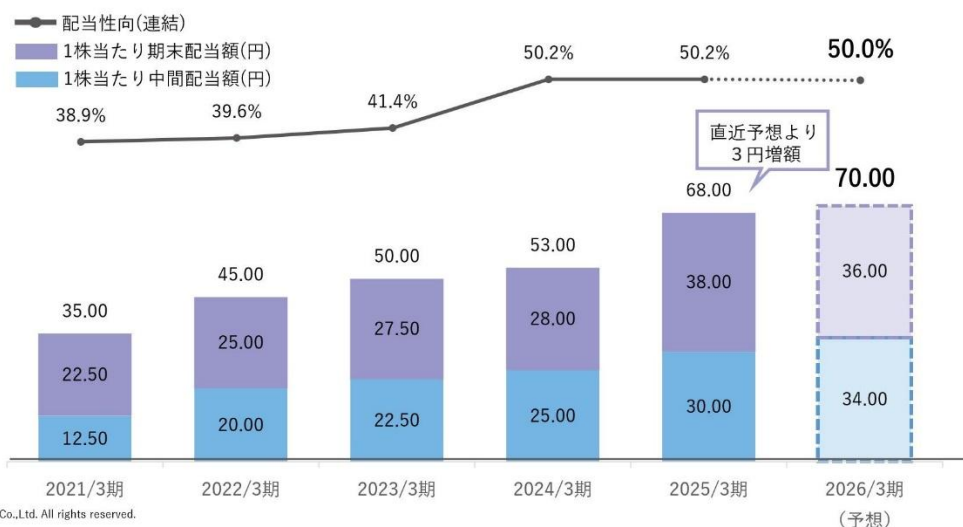
# 1株当たり配当額と配当性向の推移



2026年3月期の年間配当は 増収により、70円 に増配を予定

## 株主還元方針

- 連結配当性向 50%程度および純資産配当率（D O E）5 %以上を目標とする
- 自己株式の取得も、事業環境や財務状況などを考慮しつつ機動的に実施



23

配当額と配当性向の推移です。

2025 年 3 月期は、期末配当を直近予想より 3 円増額し、年間配当は 1 株あたり 68 円といたします。

2026 年 3 月期の年間配当は、1 株あたり 70 円を予定しています。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

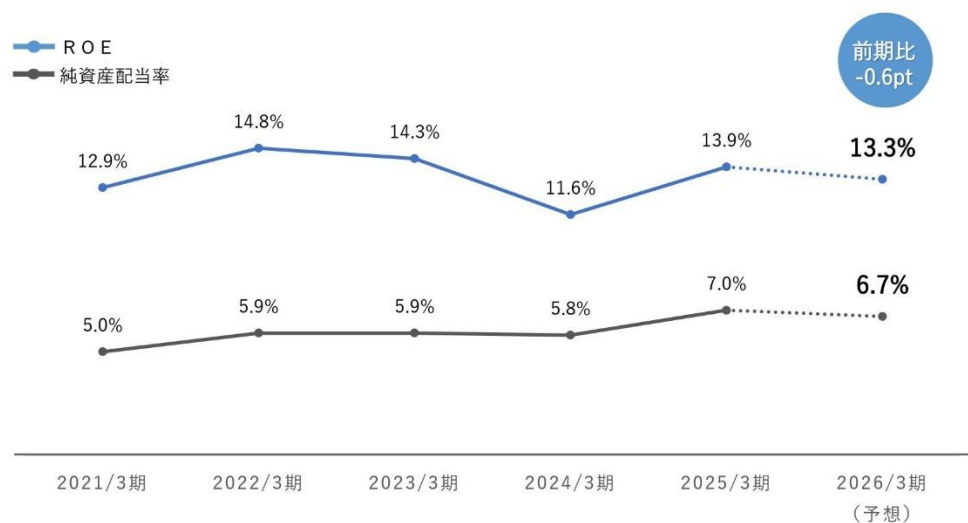




# ROEとDOEの推移



**POINT** ROE※は13.3%と若干低下するものの、DOE※は6.7%と目標とする5%を上回る見込み



※ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 / 期中平均自己資本  
 ※DOE (純資産配当率) = 1株当たり配当金 / 期中平均1株当たり純資産 (= ROE × 配当性向)

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

24

ROE と DOE の推移です。

2026 年 3 月期は、ROE13.3%、DOE6.7%程度となる見込みです。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





## ① 東京エレクトロン株式会社「環境パートナー賞」を受賞



東京エレクトロン株式会社様主催の「TELパートナーズデイ」において、「環境パートナー賞」を受賞いたしました。



### 受賞理由：

部品製造工程で排出されるCO<sub>2</sub>を削減する当社の技術が、東京エレクトロン様の目指すネットゼロへの取り組みに大きく貢献するものと評価され、全パートナー企業の中から選ばれた4社のうちの1社として受賞いたしました。



当社は今後もお客様の信頼できるパートナーとして、これまで以上に革新的な技術開発に挑戦し、新たな価値を創出してまいります。

26

続いて、2025 年 3 月期のトピックスをご紹介します。

まず一つ目のトピックスです。

2024 年 12 月に東京エレクトロン株式会社様主催の TEL パートナーズデイにおいて、環境パートナー賞を受賞しました。今回の受賞は、溶射材料のリサイクルを手がけたことが高く評価されたものでした。

当社では今後も、省エネ、3R への取り組み、非化石燃料の採用に挑戦していきます。

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## ② 持続可能な社会に貢献するサプライチェーンの構築

### 「お取引先様御礼の会」開催

開催目的：お取引先様への感謝と関係強化  
実施拠点：全事業所にて実施  
参加企業数：合計95社



「サステナブル調達ガイドライン」  
を策定（2024年8月）

#### ガイドラインの内容

1. 法令順守と国際規範の尊重
2. 人権・労働
3. 安全衛生
4. 環境
5. 公正取引・倫理
6. 安全性・品質
7. 情報セキュリティ
8. 事業継続計画

27

次に、サプライチェーンの構築についてご紹介いたします。

日頃より、大変お世話になっているお取引様をお招きし、全事業所におきまして、お取引先様御礼の会を開催いたしました。

合計 95 社ものお取引先様にご参加いただき、日頃のご支援に感謝を申し上げるとともに、意見交換をさせていただく良い機会となりました。この会には、直接生産に携わらないところで、当社をバックアップしていただいているお取引様も招待いたしまして、大変盛り上がった会となりました。

今後とも、当社は事業活動を通じて、お取引先の皆様とともに、健全で持続可能なサプライチェーンの構築に尽力してまいります。

また、当社では環境、人権、倫理などに配慮した調達を強化するため、2024 年 8 月に、サステナブル調達ガイドラインを策定しております。

#### サポート

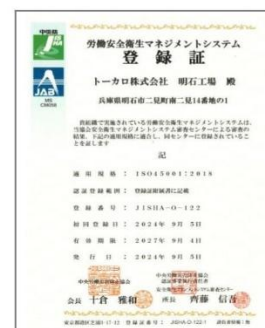
日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

### ③ 安全衛生への取り組み

#### ISO 45001/JIS Q 45100の認証を全事業所で取得

労働安全衛生マネジメントシステムである  
国際規格「ISO 45001」  
日本産業規格「JIS Q 45100」  
の認証を全事業所において取得しました。

我々は「安全はすべてに優先する」を安全衛生管理の基本とし、すべての従業員の安全と健康のために、人にやさしい職場づくりに取り組みます。



28

続きまして、安全への取り組みです。

当社では、従業員の安全と健康を最優先に考えた職場環境作りを推進しています。

その一環として、全事業所において、労働安全マネジメントシステムの国際規格 ISO45001、および日本産業規格 JIS Q 45100 の認証を取得いたしました。この認証取得により、労災の未然防止、従業員の健康管理など、持続的な安全を確保する体制が整いました。

今後も、安全は全てに優先するを安全衛生管理の基本とし、全ての従業員の安全と健康のために、人にやさしい職場作りに取り組んでまいります。

#### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## ④ 今後の成長を支える工場棟の建設



### 2025年5月 神戸第2工場竣工

用途・目的：半導体・医療分野などの新規受注、増産、生産効率化  
 所在地：神戸市西区見津が丘1丁目16番5  
 工場概要：3階建、延床面積3,120㎡（建築面積1,270㎡）  
 建設費用：約13億円 ※生産設備は含みません。



### 2025年7月 北九州工場 新棟の着工（予定）

用途・目的：半導体製造装置部品向け表面処理加工の生産能力強化  
 所在地：福岡県京都郡苅田町鳥越町10-8、10-9  
 建築面積：約1,984㎡ 延床面積：約6,994㎡  
 建設費用：約32億円 ※生産設備は含みません。  
 操業開始：2027年5月（予定）



### 2025年8月 東京工場行田事業所 新棟の着工（予定）

用途・目的：半導体製造装置部品向け表面処理加工の生産能力強化  
 所在地：千葉県船橋市豊富町631番13  
 建築面積：約3,734㎡ 延床面積：約14,201㎡  
 建設費用：約67億円 ※生産設備は含みません。  
 操業開始：2027年末（予定）

29

続きまして、工場棟の建設状況についてご説明いたします。

まず、今月の13日に神戸第2工場が竣工いたしました。

また、北九州工場や東京工場行田事業所の新棟建設についても、近々着工する予定でいます。

## サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



## ⑤ 経済産業省による成長投資補助金の採択決定

TOCALO

経済産業省の「中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金（賃上げ補助金）」に応募し、当社の成長投資計画が評価され、採択されました。

### 補助金の概要

1. 補助事業期間 : 2024年11月1日～2026年12月末日
2. 補助対象設備額 : 111億円（採択された投資金額）
3. 補助事業採択金額 : 37億円（上記投資金額の1/3）

### 設備投資の内容

半導体・FPD分野の拡大を主眼に置き、3本立ての設備投資を実行

- ①新工場の建設
  - ・半導体分野の需要拡大をうけて既存工場に新たな工場棟を新設（東京工場行田事業所、北九州工場）
- ②既存工場での先端設備の導入
  - ・自動化・省人化を実現する生産設備や受注キャパシティの増加、高機能化のための生産設備を導入
- ③先端技術開発のための研究設備の導入
  - ・溶射技術開発研究所において半導体分野に関連する「微細化技術」への対応を筆頭に新事業領域の展開に向けた先端技術開発のための設備導入

経済産業省補助事業HPに掲載

URL:[https://seichotoushi-hojo.jp/assets/pdf/koufu/outline\\_87.pdf](https://seichotoushi-hojo.jp/assets/pdf/koufu/outline_87.pdf)



30

2024年12月に、当社は経済産業省の、中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金、いわゆる賃上げ補助金に応募し、事業計画達成に向けた成長投資が認められ、採択されました。

補助金の概要につきましてはスライドに記載の通り、今回採用された投資金額は111億円となり、そのうち3分の1に当たる37億円が補助金として支給される予定です。

こうした積極的投資の背景としましては、2030年に向けた、半導体のみならず一般分野についても、業績を拡大していく考えであるからです。トーカロ単体で、2024年3月期比で、半導体分野については60%増の120億円、一般分野においても56%増の100億円の、売上増加を目指して取り組んでまいります。

本補助事業を通じて、設備投資による生産能力の増強、並びに生産効率の向上を図るとともに、これによる収益拡大を原資に、継続的な、年平均4%の賃上げを行っていく計画です。当社としては、賃上げにより従業員の会社への貢献意欲を高めて、今後の成長の基盤にしていく考えです。

### サポート

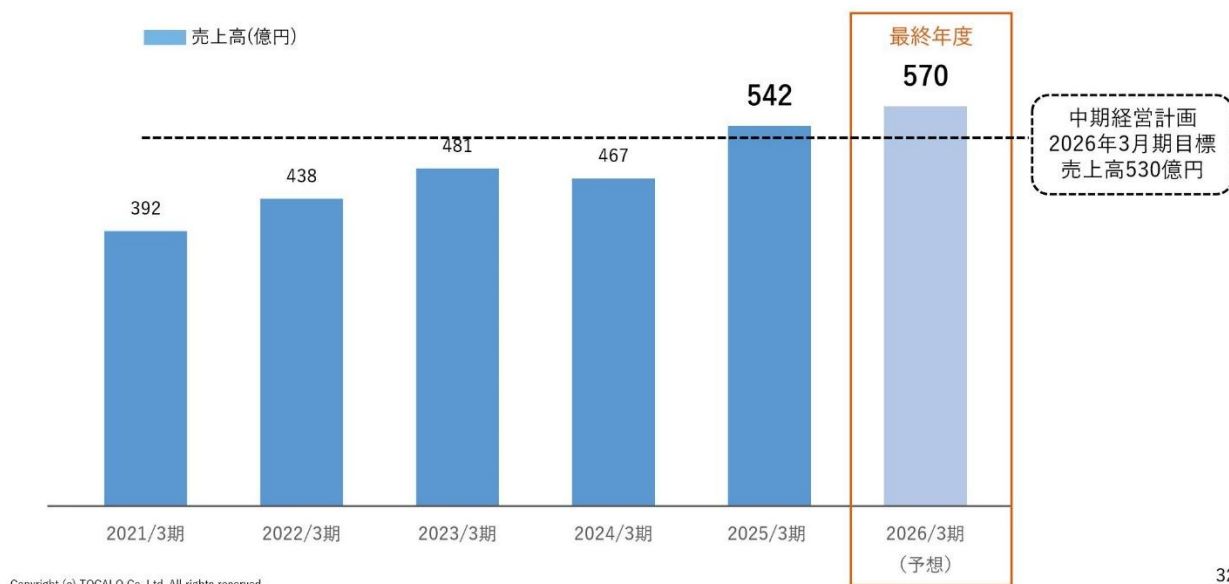
日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

# 中期経営計画（売上高）の進捗状況



売上高は計画の530億を1年前倒して達成、  
最終年度である2026年3月期の業績予想は570億円の過去最高を更新する計画



32

続いて、中期経営計画の進捗状況についてご説明します。

当期は、5ヶ年計画の5年目、最終年度に当たります。

中期経営計画の売上目標に対する進捗状況ですが、目標としておりました530億円を、1年前倒しで達成いたしました。


最終年度にあたる、2026年3月期の業績予想につきましては、570億円の過去最高を更新する計画としております。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



# 中期経営計画（経常利益）の進捗状況


**2026年3月期の経常利益も計画に対して1年前倒しで達成**  
 最終年度である2026年3月期の予想は130億円の過去最高を更新する計画



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

33

続きまして、経常利益の進捗状況についてご説明します。

こちらも、目標としておりました120億円を、1年前倒しで達成いたしました。最終年度にあたる2026年3月期の経常利益予想につきましては、130億円の過去最高を更新する計画としております。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 中期経営計画策定に向けて (2030年に向けた売上成長イメージ)

TOCALO

### 外部環境

- 半導体市場は、2030年に向けて約2倍に拡大する
- 顧客（製造業）のニーズとして、環境負荷低減や省エネなどへの対応の重要性が高まる

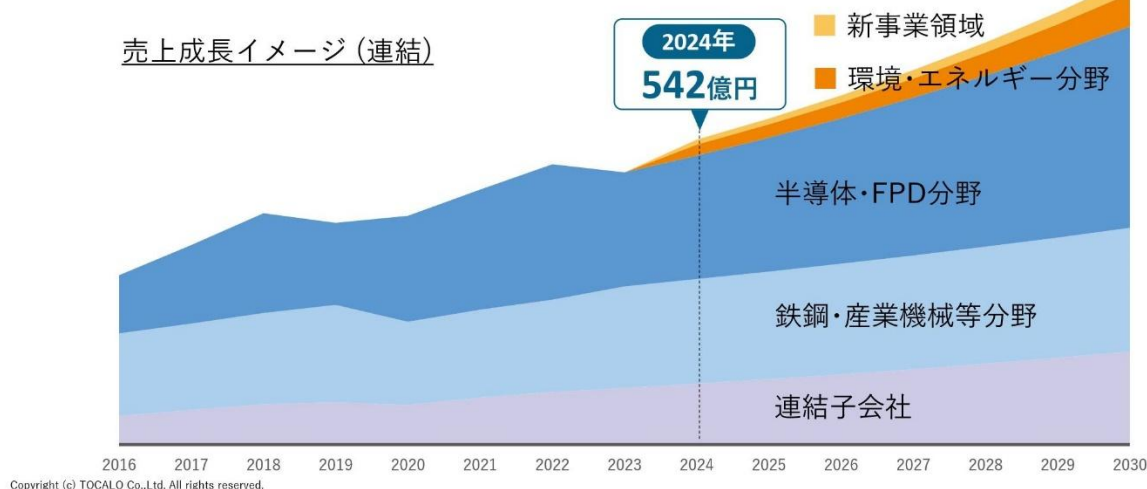
### 成長戦略

- 生産能力増強と自動化・省人化のための積極的な設備投資
- 半導体の微細化・多層化への対応をはじめ、新事業領域の開拓に向けた次世代皮膜開発

※検討中のイメージ

2030年  
800億円～

売上成長イメージ（連結）



34

最後に、次期中期経営計画についてご説明します。

こちらが2030年に向けた成長イメージです。

全製造業で、環境負荷低減や省エネ対策が喫緊の課題とされる中、当社のビジネスチャンスは拡大しております。これらのことを背景としまして、2030年には連結売上高を800億円まで伸ばすイメージを考えております。

皆様のお手元の資料と若干違うのは、2023年度の連結業績の数字をここに示します。先ほど伸びしろを、2023年比トータル220億円って説明しましたので、数字的に、この2024年だけだとわかりにくいところもあると思ひまして、ここを追加させていただきました。

ご説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

司会：ご説明ありがとうございました。

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally



## 質疑応答

---

**司会 [M]**：それでは、まずは会場からのご質問をお受けしたいと思います。

**大澤 [Q]**：いちよし証券の大澤です。半導体に関して大きく二つだけお願いいたします。

1 点目が、海外子会社のところ非常に売上伸びていまして、終わった期が約 20 億、今期のご計画が 27 億、伸びる形になっています。この海外子会社の伸びのうち、半導体の部分がどの程度か。

あと、その伸びの部分。これ、台湾と中国に分けて、だいたいどれぐらいの比率か。あと、それぞれのそのドライバー。ドライバーっていうのはキャパアップによるところなのか、工程あたりの雇用の確保数が伸びているとか、そういう要因のところを、あわせて教えていただけますでしょうか。厳密ではなくても、どっちが多いとか、そういうレベルでも結構です。

**小林 [A]**：海外子会社の半導体比率は、50%は超えていると思いますね。かなり大幅に、半導体のビジネスが伸びています。

中国、台湾の割合については、中国関連の半導体ビジネスが伸びています。それは昨年度、そして今年も、そういう計画にあります。

**大澤 [Q]**：今期、例えば 27 億伸びるところは、例えば鉄鋼とか他のものもあろうかと思えますけれども、半導体の伸びでほぼという理解でよろしいか。その他の分野でも、半導体以外のところも結構伸びる。

**小林 [A]**：ほぼ半導体で伸びる。

**大澤 [Q]**：中国が、非常に勢いがあるという理解で。台湾も強いですけど。

**小林 [A]**：そうですね、はい。

**大澤 [Q]**：あと 2 点目、設備投資、工場のお話もいただきました。概ね 2027 年に東京工場、北九州工場のところが出てきますけど、大枠でだいたい加工能力の増加っていうのは、例えば 4 割増とか、3 割増だとかっていうイメージと、特に可能であれば、そのうち北九州でキャパアップがどの程度か、お教えいただけますでしょうか。

**小林 [A]**：現状の設備投資も踏まえてっていうことになっていて、実は、昨年度までずっとやってきた設備投資も含めて、2027 年度ぐらいまでの生産キャパの増強に向けて投資をしてきた。プラ

---

### サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

スこのたびの増強、かなり大きめな投資をしまして、2024 年度比で 200%の生産キャパ増強を目指しています。だから、今の生産の倍のキャパを作るのを目指しています。

今回だけで何パーセントというのは、答えられないですが、われわれが把握しているのは、2024 年度比で、2030 年度には倍になるのを目指しています。

**大澤 [Q]**：キャパを増やしてから需要に応じて人を増やしてって、実際その 200%に向けていくというイメージでよろしいですか。

**小林 [A]**：そうですね。現状の今の設備は、おおよそ 2027 年度に向けた生産増強をしまして、28 年度から 30 年度に向けた設備の生産キャパ上昇に向けては、これから建てる工場がメインとなって伸ばしていくイメージです。

**司会 [M]**：他に御質問ありますか。さっき言い忘れましたけど、全文書き起こしの対象になっていますので、この説明会。匿名希望の人は名乗らないでください。よろしくお願いします。

**ワタナベ [Q]**：SMBC 日興証券のワタナベと申します。2 点ございます。

一つ目、先ほどの質問のご回答にありましたが、中国が伸びているということだったと思うのですが今後、中国のローカル企業が出てくると思う。それに対してこういった形で御社は取り組んでいけるのかを、可能な範囲で結構ですので、基本のお考えをお聞かせください。

**小林 [A]**：すごく難しい状況にあるって考えています。半導体業界の、中国に向けての技術提携というのは、われわれだけでは判断できないような、最先端技術がどこまでが含まれるかにもよりますが、どこまでを提供していくのかという、微妙な線引きはまだ完全にはできていません。現段階においては、一世代、二世代前の、日本でいうと、もうオープンになったような技術で対応できる範囲で現状は対応させていただきながら、これだけの成長に入っているのが実情です。

これから、それぞれの技術的な部分とか、米中の関係とかを精査しながら、どこの範囲をやっていくかは、精査していこうと思っています。ただ、現状の計画は、二世代前ぐらいの、日本ではもう技術議論の対象にならないような範囲を今、やらせてもらっています。

**ワタナベ [Q]**：確認ですけど、その対象の範囲では、積極的に対応されているっていう理解でよろしいですか。2 世代前のものに関しては、リクエストがあれば、もう積極的に取りに行っているっていう感じでしょうか。リクエストがあればということですね。

**小林 [A]**：そうですね。はい。

---

## サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

**ワタナベ [Q]**：二つ目が、可能であれば、次の中計の投資の考え方をお聞かせ願いますでしょうか。先ほどキャパの話もあったのですが、今回立ち上げられる工場で開示されているのは、たぶん建屋の部分の金額だけかなと思いますので。

2028、30 とかまで含んで考えたときの投資の水準は、過去の水準感ぐらいのペースで上げていくのか。それとも結構なペースで上げていかなきゃいけないような引合いが見えてきているのか。イメージで結構ですので、教えていただけますでしょうか。

**小林 [A]**：従来の投資に比べると、やはり大きな金額を入れていくと思います。3 割ぐらいは増やした値で推移していくっていうふうに考えています。

**ワタナベ [Q]**：金額を増やさなきゃいけないのは、溶射の対象の製品が増えているのか。それともお金をかけなきゃいけないような技術を導入しなきゃいけないのか。両方だとは思いますが。

**小林 [A]**：われわれが今把握しているのは、もちろん新しい技術が入ってくる部分もあるのですが、現状、開発しているもののボリュームゾーンが変わって、われわれが今から加工するものの範囲が拡大していくこともありまして、設備増強しなければならないっていうことに繋がっていています。

**ワタナベ [Q]**：一応確認ですけど、そうすると見合いで、売上も増えてくるって理解でよろしいですね。

**小林 [A]**：もちろん。800 億円に向けて、単体でも 600 億円を目指して、グループ全体でも 800 億円目指すっていう、そういう成長路線で行きます。

**司会 [M]**：他にご質問はいかがでしょうか。オンラインのほうは、質問は今、来てないようですね。はい。会場の方、もしございましたら。では、もう 1 回行きましょうか。

**ワタナベ [Q]**：度々すみません。SMBC 日興証券、ワタナベです。

前回の説明会でも、少し、セラミックスと違うタイプのコーティングのお話があったかと思うのですが、次の中計のところで、新しいコーティングのところも増えていくのか。それとも、既存の溶射の技術によるコーティングのほう伸びしろが大きいのか。事業範囲が広がっていくイメージなのか、それとも今の主力事業がそのまま伸びるイメージなのか。どちらのほうを持てばよろしいでしょうか。

**小林 [A]**：もちろん、われわれ半導体ビジネスを割合として 50%ぐらい、大きい割合でやっていますので、結局どの加工品がボリュームゾーンに行くかに大きく左右されています。

---

## サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

もちろん、溶射加工以外の取組みも今、広げていっているし、装置や設備もなければ開発も進まないような状況にあって、その投資ももちろんやってくるんですけど、それで利益が上がるか、売上が伸びるか、っていったらそういうことではないかもしれない。

投資として売上が伸びるのは、ボリュームゾーンに入るものがどこで、そのボリュームゾーンのものは何だっていう問いになるが、現段階は溶射っていうお答えをせざるを得ない。

溶射プラスもっと新しい技術開発っていうか、挑戦もこれからどんどんしていきます。子会社 JCC と薄膜技術を共同開発するような開発も進めていく。

しかし、それがボリュームゾーンに行くかと言ったら、そう簡単ではなくて、ボリュームゾーンに行くのは中期経営計画に入れている限りにおいて、今のところは溶射を中心にしています。

**司会 [M]**：はい、どうぞ。

**ワタナベ [Q]**：度々すみません。SMBC 日興証券、ワタナベです。株主還元について、次期中計で何か変化はありますか。

**小林 [A]**：現時点では配当性向 50%、DOE5.0%以上を目標で、これを目途に配当性向、やっていこうと思っています。現状われわれも経験したことないような設備投資を、これから何年間か継続してやっていきますので、そこら辺を見ながら、今後どういうふうにしていくかを検討したいと思っています。

**司会 [M]**：はい、お願いします。

**イリサワ [Q]**：立花証券のイリサワです。今期の受注状況について、3 分野教えてください。

メインの半導体のところ、多分 3 カ月ぐらい前と 6 カ月前ぐらいの話を、聞いた感触からすると、6 カ月前は非常に好調で、3 カ月前はまあまあ好調だけでも来期は横ばいプラスぐらいかな、みたいなお話を伺っていた記憶がある。現状どんな状況なのか、アップデートを教えてください。

あとは、今期、マイナスで見ている産業機械のところ。どんな状況で、回復が見込まれるタイミングがどういうふうに見てらっしゃるのか。

あと、国内子会社のコーティングセンターの自動車の切削工具のところ。こちら今期、どういうふうに見てらっしゃるか、この 3 部門を教えてください。

**小林 [A]**：半導体関連のビジネスが、6 ヶ月前ぐらいから好調になりました。一昨年すごい低迷というか、踊り場を迎えて、昨年後半から急激に持ち直してきました。

---

## サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

今年、年頭から、今年は慎重にいかねばならないというような状況ですけど、わりと戻ってきた状態が横ばいになる状況で、今年が下がるっていう話は今のところまだ聞いてないです。

とはいえ、昨年を上回るほど伸びるかって言ったらそうでもないですが、昨年の後半の半導体の復活が、今期も横ばいに推移するということにお知らせさせてもらっています。なので、伸びていくっていうイメージではなく、好調な時期の横ばい、昨年同等ぐらいの状態かなっていうふうに考えています。

あと産業機械のほうは、今期から上昇傾向に向かいます。ガスタービン関係の話だったり、電池の話だったり、水素に関わることであったりっていうのが徐々に芽生えてきて、これから上昇傾向に向かうかなと。一旦止まっていたけど、新聞紙上でガスタービン系が盛り上がっているように、われわれのほうもガスタービン関係の仕事がだいぶ盛り上がってきたと認識している。これから 2030 年に向けては結構、そういうエネルギー関係の分野が伸びていくだろうというふうに考えています。

あと、国内子会社の JCC に関係するところは、確かに自動車の影響がかなり大きくて、これからよく動向を見ていく。先ほども少し話しましたが、半導体関連のビジネスも、薄膜系に向けて取り組みを開始していくので、そこら辺が、今年、来年で、だんだん花咲いていけばいいというふうに考えています。

**司会 [M]**：他にご質問はよろしいですか。

それではないようですので、以上をもちまして説明会終了です。皆様お疲れ様でした。会社の皆様ありがとうございました。

なお、時間の関係で回答できなかったとか、新たなご質問ございましたら、IR 担当者様にご連絡されたら回答していただけるそうですので、よろしくお願いいたします。

[了]

---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com